発行所　ファーム７７３

ナナミちゃんの農事通信

第284号
発行日　2017.03.30
発行人　佐藤　保

山梨県北杜市明野町で「雨と風と太陽と」「土と人情」に囲まれた。ナナミちゃんの「私、土の子」奮闘記

未知との遭遇
仲間か? 両者
にらみ合いに
03.18撮影

1 春の繁忙期がやって来た

03.24カボチャ芽!!

03.10←春の種　↑ポット蒔きを玄関で苗に育てる。

三月も春分の日に近づくにつれ何かと気忙しい、カカは一年前の農事暦と天気予報を見くらべ「明日は種蒔き」と言って出かける。冬眠明けではないが、いよいよ活動期に入ったようです。

03.14↑とう立ちが遅い春蒔き大根種を、キャベツ苗畝の隣に畝を作り蒔く、庭畑の残った玉ネギ苗も移植した。

03.11↖庭畑の秋蒔きブロッコリーとキャベツ苗を掘り上げ　↑カカは苗を植える畝作り←耕した畝に移植を終る。トトは↓畑を管理機で2日間耕す

←03.20庭畑の野菜屑捨場の松杭3本も取替え補修、堆肥を梅の木の下の蕗や茗荷にまいて肥料に

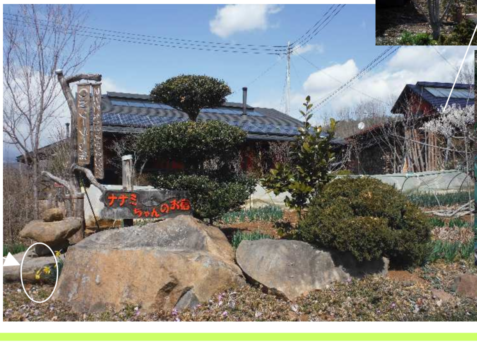
2「ナナミちゃんのお宿」は？　↑

↑03.24朝にお宿前から甲斐駒ケ岳。

→お宿看板の岩の間で春一番のラッパ水仙が咲いた!!

ナナミちゃんのお宿前で水仙の花が咲きだし、ウエブサイト「チルチンびと広場 山梨県」に掲載されている花咲くお宿も、あと半月ほどで。

03.24お宿室内から梅花満開を



↑03.23お宿前の花壇で姫水仙咲く、手前も水仙です

目次

1 春の繁忙期がやって来た　1
2「ナナミちゃんのお宿」は?　1
3 季節の変わり目は忙しく　2
4 三月のお味　2

ハイライト

3月20～24日「雀始巣すずめ はじめて すくう」雀が巣を作り始める頃という意味。雀は雑食性であることから、秋には稲穂をはじめ農作物に被害を与える反面、春には害虫を駆除してくれる。農民も雀が穀物をついばむ習性を善意に解釈して、親の死に目に間に合わなかったツバメは虫しか食べられないのに対し、なりふり構わずに駆けつけて間に合った雀は穀物を食べるのを許されたという「雀孝行」の物語もあり、民話では「舌切り雀」でも、雀は富をもたらす鳥として描かれている。人家の屋根瓦の下に巣をつくることも多く、雀が人間社会に依存して生きていく鳥であり、雀は必ず人間の住む集落にすみ、人間がいなくなると雀もまたいなくなった。自然界にいる虫だけでは、食べ物が充分ではなかったのだろう。トトの少年時代は夕方の竹林に竹がしなるほど雀が群れていた。今の明野では数羽の集団を見かけるだけに、農薬が普及し虫が減り、耕作する田畑も減り、人間が減り集落もなくなってゆく今、暦の「雀始巣」も死語に･･･

03.13畑の空豆に花咲く株が、早すぎる。

3 季節の変わり目は忙しく

冬野菜から春夏野菜への転換期は忙しい、畑を耕したり種蒔き苗作りの合間に野菜屑捨場などの作り替えや補修。畑へ出かけてもカカトト作業の手分けをしたり、共働作業だったりと。サラリーマン時代はカカがトトに合わせ、退職後はトトがカカに合わせ十数年、半給半足の田舎暮らし。

03.16畑から地蔵岳～甲斐駒ケ岳

↑03.16昨年倒壊した野菜屑捨場、用水路の流れに土が削られ、同じ場所には作れない

↑畑側に大きく移動し松杭を立て始める。↓農機具小屋でカカ手作りの天丼弁当で昼食を、家で食べる時間を畑仕事に当てる

←管理機で耕した後をカカはクワでジャガイモの畝掘り ↑土の里や牛糞堆肥に鶏糞や化成肥料をまき ↗鍬で肥料を畑土の下に入れる力仕事

←03.16春大根の種を蒔いた隣に、2畝だけ早めにジャガイモのキタアカリを植付け。→03.23ジャガイモ3種「インカのめざめ」「インカルージュ」「インカのひとみ」を植え、ノーザンルビーは芋1個だけ植えた。

↑捨場の片側を作り、野菜屑で作って置いた堆肥を運び出し。↗畑へまいて耕す。→1坪ほどの捨場完成。

4 三月のお味

梅さし酢に橙酢と夏みかん酢などの果実酢や、季節の果実でジャム作り。共に保存も出来て料理にも活用し、夏みかんママレードなどジャムで食卓もにぎわいます。

03.19↑三宅島から夏みかん2箱届く「ハナも食べる」 ↓水洗いした無農薬みかん、皮の傷などを削り落とし、↘皮と実に分け、皮は細切りしてアク抜き実は袋から果肉を取り出し砂糖で煮込む。

↑ラベルが貼ってある左上の瓶は一回目の「夏みかんママレード」右下のラベル無しは二回目。間に「蕗味噌」プラパックと細長い瓶は「夏みかん酢」どれも販売中。

←丹波黒豆味噌と砂糖を煮て練り味噌を作り、その中へ刻んだ蕗の薹を入れて煮込み↙水分をとばし練って出来上がり。熱々ご飯に蕗の香りがします。オニギリなどにも。

↑蕗味噌をプラパック容器に詰めました。